

様式6

: 「学校」部門

河川基金助成事業

「水が自然に与える働きを遊びを通して、
身近な自然環境のすばらしさや働き、力を感じとる」
報告書

助成番号：2024-7111-018

大分県大分市学校法人立山学園みんなの森こども園

園長 氏名 渡邊 文生

2024 年度

助成番号	助成事業名		施設名	
2024-7111-018	水が自然に与える働きを遊びを通して、身近な自然環境のすばらしさや働き、力を感じとる		学校法人立山学園みんなの森こども園	
所在地	大分県大分市	対象河川名	なし	
対象園児	5歳児(47人)、4歳児(46人)、乳児(38人)		活動時間	時間
河川教育の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・水の中は、陸上と違う動きを理解するとともに、安全に水と触れ合うことができること ・これらの体験活動を通して、水の持つチカラやハタラクの、不思議さや恵みに気付くとともに、身近な自然環境のすばらしさを感じ取らせる。 ・また、友だちと力を合わせて物事に取り組みやり抜く達成感と自己効力感を感じ取らせる。 ・自然の持つ不思議な力を、自分の持っている知識経験と繋げて確かめる工夫に挑戦する 			
育みたい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事柄に関わる中で、水の性質や仕組みなどを感じ取ったり、考えたり、予想したり、確かめようとする力。 ・友だちとの考え方の違いに気づくようにさせたい。さらに、自然に触れることで、自然の変化などを感じ取ることや言葉で表現する力。 ・経験などを通して力を確かめる工夫に挑戦する芽。 			
学習活動の内容と成果				
<p>○【流れるプールで遊ぼう】</p> <p>水に浮くこと、水の中で体が軽くなること、水の中で動くために「ワニさん歩き」や「サメ」などの動物になりきる遊び、輪をジャンプでくぐる動物のように「フープをくぐる遊び」などを行った。さらに、流れる水に対応する経験を持つため、みんなでプール内を歩き、水流ができることを計画したが、体力・筋力がない3歳児では「プール歩き」の代わりに、「ワニさん歩き」でフープくぐりを繰り返し行っていると、水流ができた。この水流の中で「体育座り」や「ワニさん」をすると、自分の意志ではない動きを感じ取り、流れる水はモノを動かす力を持っていることに気づく。また流れに乗って動くことができた。</p> <p>3歳児でも水に親しみ、水の持つチカラについて理解し、水を「正しく恐れる」芽をつくり出すことができた。</p> <p>○【氷で遊ぼう】</p> <p>対象5歳児：水は、温度によって、硬い氷や溶けた水になるなど姿を変えることを体感し、その原因について、生活経験と結びつけて、氷のできるわけについて考える。</p> <p>夏のプール遊びに牛乳パックで氷ができることをみせて、氷をプールに浮かべるあそびを行った。年明けの寒気が厳しい日に牛乳パックで氷を作ろうとした。園舎南側のベランダにパックで氷づくりを実施した。見事失敗。子どもに報告し、失敗原因と、成功するためにはどこに置けばよいかを予想させ、実験装置を作り、子どもたちの仮説通りの場所にパックを置いた。実験は見事成功。みんなのパックには氷ができていた。</p> <p>教室に持ち帰り、結果をみんなに見せて、報告会を行った。みんなのパックには見事氷ができていた。</p> <p>見比べてみたら、<u>出来具合に違いがあることに気づき</u>、条件（設置場所）ごとに整理した。<u>共通点と差異点があることに気づき</u>、新たな課題が明らかになった。</p> <p>気温の変化により、水が姿を変えてゆくことに驚き、<u>蛇口から滴り落ちる水が凍ってしまったことに驚きを持つことができた</u></p>				
学びの創意工夫点	牛乳パックで氷を作る容器を、他人と区別できるように各自工夫 パックの高さ、目印となるビー玉やオハジキ			

河川教育を通じて見られた子どもの変容

水の持つ特徴や能力について、関心を持ち、理解しようとする姿が見えてきた。

○【流れるプールで遊ぼう】
 昨年の5歳児と同様、はじめは、水を畏れていた子どもが、知識と経験を蓄積し、さらに友だちの支えを受けて、水から水に親しみ、かつ動そうとする意識と意欲を持つことができた。
 3歳児は、筋力・体力が少なく、水中歩行は困難であった。「おもちゃあそび」で、水に慣れ水中での動きが活発になった。水に顔をつけたりプール底から足を離せなかった子が、みんなが楽しく活動しているのと励ましにより、最後には一緒になって、「イルカごっこ」ができた。「ワニさん泳ぎ」でプールを回っていると、自然と水流ができて、その流れに乗れば楽に泳げることを知った。止まっていた子が水流に運ばれて動いていることに驚きを持っていた。4歳児は、体力が付いてきていたので、5歳児と同様の活動ができた。

○【氷で遊ぼう】
 屋外で氷を作ろうとした保育士の試み「氷がうまくできなかつた」ことを受け、5歳児の行動の変化である。
 ・みんなで氷を作ろうと保育士に協力しようとしたこと。・失敗の原因について考え、その原因を取り除いた条件で実験を計画したこと。・条件について、各自の生活経験をもとに設置場所推論予測して、発表したこと。・実験装置は、各自他人のものと区別できるように工夫をしたこと。・実験結果について、確認しできたことに満足し、自己成就感を感じていた。・他のメンバーと交流し、結果に違いが出ていることに気づいたこと。・その違いが設置条件によっていることに気づくことができたこと。

支援者等（複数記入可）

保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等	関係団体（漁協、農協）等		企業		その他
支援の概要	計画アドバイス、記録、					

今後の課題・展開

水や環境に対する活動を計画する場合、年齢に沿った、体力や筋力、協調性など発達段階や、経験などでの個人差を明確に意識する必要がある。これらに対応する配慮する活動を開発することがひつようである。さらに教材教具の開発と月齢だけでなく子どもの発達を考慮したルーブリックなどの尺度づくりが必要と考える。また、安全指導の職員への技能向上の研修が必要と考える。

キーワードとなる言葉にアンダーラインを引いて下さい。

助成番号	助成事業名	園名
2024-7111-018	水が自然に与える働きを遊びを通して、身近な自然環境のすばらしさや働き、力を感じとる	学校法人立山学園みんなの森こども園

【氷で遊ぼう】



学習活動名：牛乳パックで氷がつくれる

日付：令和6年8月20日

見られた子どもの姿：

調理室の冷凍庫で冷やした水の入った牛乳パックを子どもに見せた。

「昨日、牛乳パックに、水を入れて、調理室の冷凍庫で一晩冷やしておきました。どうなってるかな。」

子どもは不思議そうに見入っていた。(冷蔵庫で、水を冷やして、冷水を作ることは経験していた。冷凍庫ではどうなるかは、経験がない。)

「冷たくなっている」

「家で、麦茶なんかを冷やしているよ。」

日常経験に基づく意見が出てきた。



学習活動名：牛乳パックで氷がつくれる

日付：令和6年8月20日

見られた子どもの姿：

グループごとに牛乳パックを渡した。

「みんなで開けてみようか。」

と保育士が言うと、みんなは一斉にパックを開けて、中身を確認した。開けてみると、冷水ではなく、氷が出てきた。

「わーっ。凍ってる。氷が出てきた」

「さわってみたい。」「ぼくも」「わたしも」

興味深くパックを開けて、中身をたしかめていた。



学習活動名：牛乳パックで氷がつくれる

日付：令和6年8月20日

見られた子どもの姿：

「こんなに大きな氷が出てきたよ。」

「わー、すごい。僕にも触らせて」

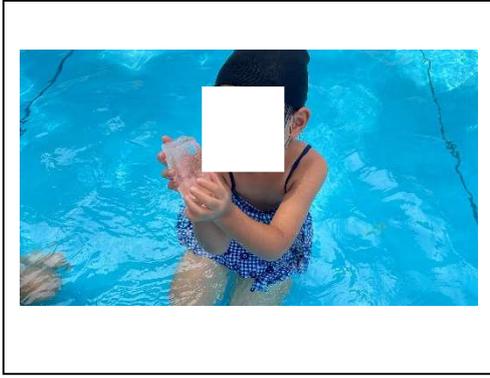
パックの上面だけでなく、側面も凍っていた。

「船みたい」

「ふしぎだね」

「箱全体ではないんだね。なぜだろう」

パックの上部の表面だけでなく、側面からも氷ができることにとても驚いていた。



学習活動名：プールで水と遊ぼう

日付：令和6年8月20日

見られた子どもの姿：こどもたちはプールの中に持ち込んで、水の中に入れて、遊んでいた。

「見て、水に入れたら、こんなにきれいになった。」

水にぬれて、表面が滑らかになり、きれいになることに驚いて、嬉しそうにしていた。水に触れると、氷の表面が変化することに気づいた。



学習活動名：プールで水と遊ぼう

日付：令和6年8月20日

見られた子どもの姿：

みんなで、もてあそぶうち、氷が解けてゆき、氷が解けてなくなってしまった。

「あーん。こおりが割れて、なくなっちゃった。」「壊してしまった。」

とベソをかいて泣き出してしまった。

とても楽しく遊んでいたのに、どんどん溶けて、ついになくなってしまい、見えなくなったことと、自分が壊したのではないかと考えて、悲しくなってしまった模様。

氷は、水に入れると、いつかは溶けてなくなることに気づき始めた。この氷はどこに行ったんだろうね。



学習活動名：一人ひとり氷づくり作戦

日付：令和6年8月20日

見られた子どもの姿：

一人ひとりが自分の氷を作ろうということになった。「同じ牛乳パックだと自分のモノがわからなくなる。」という意見が出て、一つの課題が明らかになった。

「どうしたら、他の子の氷と区別がつくかな」ということで、みんなで考えていた。

「そうだ、おもちゃを入れればいいんだ」（乳児の時の氷あそびで、氷にいろいろなおもちゃを入れあったことを思い出したもよう。）



学習活動名：一人ひとり氷づくり作戦

日付：令和6年8月20日

見られた子どもの姿：

「宝物さがし」のために使っていたビー玉やおハジキが目に入り、

「そうだ、ビー玉を入れよう。」

ということになり、それぞれ自分のお気に入りのビー玉やおハジキを入れていた。

翌日のプールの時間に、みんなは間違うことなく各自の作ったパックの氷で、楽しく、遊ぶことができました。



学習活動名：外で氷を作ろう大作戦

日付：令和7年1月8日

見られた子どもの姿：

年明けに、寒気団が日本に来週。寒さが厳しくなると週間天気予報があった。園庭の水たまりの表面が氷氷ができていた。



学習活動名：外で氷を作ろう大作戦

日付：令和7年1月9日

見られた子どもの姿：

これを見つけたAくんは、カケラをつまんで。

「氷みたいなの、こんなのが、園庭にできていたよ。」

と報告してくれた。

「外でも氷ができるんだね」「不思議だね」

「みんなで氷ができるか、確かめたいね」

と約束した。



学習活動名：外で氷を作ろう大作戦

日付：令和7年1月9日

見られた子どもの姿：

園舎北側にある玄関横にメダカの観察用の水槽が置かれている。この水槽の表面にも氷がよく張っている。氷に興味を持ったAくんは、水槽にはっていたこおりを発見し、取り出して、

「見て見て、こんな大きな氷があったよ。きれいだね」

まるでガラスのような氷でした。

「冷たい。つるつるしている。」

手に持った感触を楽しんでいるようであった。

夏のプールの時と同様に牛乳パックで氷を作ることとした。牛乳パックに水を入れて、園舎南東側にプールを設置していたベランダに一晩置いた。翌日午前中に、牛乳パックを確認したところ、氷はできていなかった。

このことを、子どもたちに伝えて、「外で、氷を作ろうとしましたが、うまくできませんでした。」「夏にプールで遊んだ朝日の良く当たる東側のベランダにパックを置いておきました。」と報告し、「氷づくりに失敗したのですが、成功するにはどうしたらいいですか。」「助けてください」と問いかけた。

すると、子どもたちから様々な意見が提案された。

「東側のベランダは、お日さまがよくあたるから、あたたかいよね」「お日様が当たって、氷がとけてしまったかも」

「東側のベランダは、温かいよね。風があまり来なかったよね」

などと、できなかった原因として置く場所に問題があると予想した。東側のベランダでは、日照や温度、風通しの点から、氷づくりに条件が悪いことに気づいた模様。

「お日さまが当たらないところがいい」

そこで

「では、どこにおいておけばいいのかな。」と問いかけたところ、「玄関まえがいい」「森のひろばに置けばいい」と2つの意見が提案された。



学習活動名：外で氷を作ろう大作戦

日付：令和7年1月9日

見られた子どもの姿：

園舎北側玄関前グループの意見。

玄関わきの水槽に氷が張ってるのを見た子どもから

「氷ができてるところに、おいておけば、こおりができるよ」

「水槽のところにおいておけば、できると思う」

など、水槽や園庭に氷ができるなら、そこには必ず氷ができると予想して、体験に基づいた自分の意見を述べている。この意見に、他の子どもから

「園庭だと、小さなお友達（乳幼児）がさわってひっくりかえされると困るね。」など、これまで、小さなお友達にモノを壊されたり、育てていたお花を摘み取られた経験をもとに、年下の子どもに実験を邪魔される危険性があることから、修正意見が出てきた。そこで、「小さな子が触ってこない玄関前の水槽にしよう」と意見がまとまった。

「水が冷たいから、水の中に入れておけば凍るのではないか」などの意見が出てきた。

調理の手伝いで、プリンなどを冷水が入った器に浮かせて固める経験から、類推したものと捉えられる



学習活動名：外で氷を作ろう大作戦

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

園舎南側森の広場グループの意見。

写真に見るように、小高く風通りがよい。また、北斜面であるので、南側には木立があり、朝日を遮って、直射日光が当たらない。

「裏の森の中で遊んでいた時、とってもつめたかったから、そこだと氷ができるかもしれない」

「ガーデンテーブルはとっても冷たかったよ。氷みたいだった。」

「土がとっても冷たかったよ。土の上においておけばいい。」

日頃遊んだ時の体感をもとに、園舎南にある小高い丘の北側斜面の広場を提案する意見を提案していた。

午後の時間に、給食室から牛乳パックをもらい、容器を作ることにした。この時、自分のものとわかるように、パック上部をハサミでカットし、容器の高さを変えるとともに、容器の中にビー玉やおはじきなどを入れる工夫を行った（夏の「プールで水と遊ぼう」時の工夫）。出来上がった容器に水を入れ、各自が提案した場所（玄関脇、森の広場）に置いて、氷ができるのを楽しみにして帰宅した。

次の日、皆は一度教室に集め、

「氷がうまくできているといいね。」

「一度自分の氷を確認して、また教室に戻ってきます。そして、みんなに自分の氷を見せてあげましょう。」

とスケジュールを説明した。そののち、各自がパックを置いた場所に行き、氷の出来栄を確認に行くことにした。



学習活動名：外で氷を作ろう大作戦（玄関前グループ）

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

玄関前のグループは、氷がよく張っていた水槽の周りに各自のパックを並べていた。水槽の前に置いていたものもあれば、水槽の陰に置いていたものもあった。

「水が凍らせる」

という予想をした子には給食室からボウルを借りてそれに水をはり、その中にパックを入れて、水槽わき地面に直置きした。



学習活動名：外で氷を作ろう大作戦（玄関前グループ）

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

みんなのパックには、水面にはきれいに氷ができていた。

「氷ができている」

「揺らすと、ビー玉が動いた」など、氷が表面に張っていることを確認するとともに、そこにあるビー玉が自由に動き回ることを確認した。つまり、底まで氷にはなっていないことが確認できた。

「わー。ボウルの水が凍っている！」

「水が凍らせる」と予想したBちゃんは、ボウルの表面の水面が凍り付いていることにとっても驚いていた。パックの中にできた氷より、ボウルにできた氷にとっても驚いている様子であった。



学習活動名：外で氷を作ろう大作戦（森の広場グループ）

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

森の広場グループでは、地表に近いところの木の切り株にパックを置いたり、直接地表に置いていた。



学習活動名：外で氷を作ろう大作戦（森の広場グループ）

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

風通りの良い広場内にある鉄製のガーデンテーブルの上に置いていた。



学習活動名：外で氷を作ろう大作戦（森の広場グループ）

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

この、ガーデンテーブルに置いた牛乳パックは、すべて水ができており、底まで凍ってる様子であった。



学習活動名：大発見や

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

前日の寒気が厳しく、広場内の手洗い用シンクの蛇口から、水が滴り、それが冷え固まってツララのようにになっている。大分市内ではツララを目にすることはほとんどない。

森の広場グループの子どもたちが、園庭を抜けて、丘の中腹の「森の広場」にやってきて、一番最初に目にした光景であった



学習活動名：大発見や

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

水道の蛇口から、見たこともないものがくっついていることを発見したCちゃんが、自分たちの牛乳パックのところに行かずに、蛇口のところに直行して、観察していた。そして、これが蛇口から出てきた水が凍って、時間が止まったようになっていることに気づき、みんなに聞こえるような大きな声で

「こおっちよる（凍っている）。」「こおっちよる。水が凍ってる。」と指をさしながら何度も何度も声を出していた。



学習活動名：大発見や

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

それをききつけたほかのおともだちが、

「どうしたん。」「なんなん」

「アツ。ほんとだ、水道のところから水が凍って出てる」

と不思議そうに見入ったり、驚いていたり、珍しい不思議なものをみたような表情をする子供もいた。



学習活動名：大発見

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

ガーデンテーブルに置いたグループの子どもたちは自分達が置いていた牛乳パックを探し当て、中身を確認した。牛乳パックの中には、見事氷ができていた。

「こおちよる！こおちよる！」「こおりができています」など口々に声を出し、お互いの出来具合を比べていた。

その中で、Dちゃんが

「ほら、氷ができていますよ。中野ビー玉はうごかないよ」とパックを振ったり、横にして見せてくれた。

このグループの氷は、そこに沈めたビー玉が動かないことから、底の方まで凍っていることがわかった。



学習活動名：

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

木の切り株や、地面に直接置いていたEちゃんからは見事に氷ができていた。よく中身の氷が見えるように、横にしてくれたところみると、氷ができてるのがよく分かったが、それと同時にビー玉は動いて、いることがわかった。



学習活動名：みんなに教えてあげよう（情報共有）

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

玄関前グループも森の広場グループも、教室に戻り、氷の出来具合について、お互いに教え合いっこをすることにしました。



学習活動名：みんなに教えてあげよう（情報共有）

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

「見て見て、わたしのはこんなのができたよ。」

「こおっているね」

「ほんとだ。きれいにこおっている」



学習活動名：みんなに教えてあげよう（情報共有）

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

「わたしのはこんなのができたよ。」

「ほんとだ、こおっているね」

「ビー玉が動いているね。」



学習活動名：みんなに教えてあげよう（情報共有）

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

玄関前グループの子どもは、自分たちでパックから氷を出した板

氷をうまく取り出すことができた子どもからは

「見て見て、こんなにきれいな氷ができたよ」

きれいに出来ていることに満足し、笑顔が見えた。厚さが3～5ミリ程度であった。



学習活動名：みんなに教えてあげよう（情報共有）

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

「水が凍らせる」と考えたBちゃんは、パックの周りにできた氷を友達に見せていた。

パックの中の氷より、パックの外の氷が気になる様子であった。



学習活動名：新たな課題へ

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

森の広場のガーデンテーブルに置いたグループの氷は分厚くて、子どもたちの手には負えなかったため、観察者がパックをハサミで解体して、氷を出すことを手伝った。

厚さは、10ミリほどであった。



学習活動名：新たな課題へ

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

同じ森の広場グループでも、切り株や地面に直接置いた子どもたちのこおりである。厚さは、玄関前グループのものとはほぼ同じ3～5ミリほどであった。



学習活動名：新たな課題へ

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

「氷のあつさが、ちがっとる」
「どれが、いちばんあついかな」
「どうして、こんなに違うの」
と不思議そうに話していた。



学習活動名：新たな課題へ

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

みんなの氷を見せあい、意見交流が終わった後に、こどもから、
「みんなきれいに氷ができていた」
「ぶあついこおりがあった」「うすいこおりがあった」
どうして、同じように一晩外に出していたのに、氷の厚さに違いが出たのかな」といかけた。
「わからん」
と答えが返ってきた。

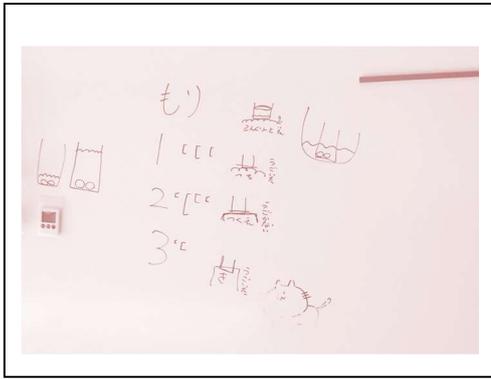


学習活動名：新たな課題へ

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

「おいたところかな（置いた場所に関するのかな）」
「では、それぞれのグループ順に、自分の氷の厚さを言ってみよう。先生がホワイトボードに書いていくからね」
（玄関前グループ、森の広場グループなど順番に子どもたちが「これくらい」と自分の指で厚さを示して発表していった。それを保育士が子どもたちの指で示す厚さに合わせて大きさをホワイトボードに書いていった。



学習活動名：新たな課題へ

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

「てつのテーブルに置いたのが一番分厚い」

「つちのうえにおいたのは、テーブルところにまけた」

森の広場のガーデンテーブルに置いたグループの氷が一番分厚かった。また、ビー玉が動かなかったことを書き示した。土の上に直接置いたグループの氷は、2番目の厚さで、ビー玉が動いたことが報告された。木の切り株に置いたグループの氷は、他の2つのグループにくらべて厚くなく、また、ビー玉は動いたことが報告された。

玄関前グループは、全員のこおりは厚くなく、またビー玉は動いていた。



学習活動名：新たな課題へ

日付：令和7年1月10日

見られた子どもの姿：

寒い夜に、部屋の外に水を入れたパックを出していたら、凍って氷を作ることが確認でき、各自ができるであろうと予想したところで、きちんと氷（結果）が出たことに喜んでいた。（自己成就、達成感の芽）場所によって、氷の状態が違うことにも気が付いた。

「なんでだろう」「お日様にあたらないので、氷ができたよ」「でも、違っていた。」「なんでだろう。ふしぎだね」との声が、聴こえ、話し合っている様子が見えた。

さらに、新たな課題が見つかって、これに挑戦しようとする子どもも現れてきた。

置く場所（条件）によって、できる氷の厚さと、ビー玉が動く／動かないなどの結果に違いが出ることにも気づいた。

「氷をつくりたい」（課題設定）という目的意識を持ち、

「こうだったから、こうしたらできるのではないかな」（先行経験に基づく仮説設定）をたてて、やってみる（試行）

「氷ができた」（結果の確認）と結果を確認し、予想が正しかったことを実感する（自己効力感、自己肯定感）友だちの結果と交流するし、比較検討する中で

「違いが出てきた、なぜだろう」（新たな課題）に気づく

という、サイクル（科学する心の芽）が体験することができたと考える。

河川教育の観点からは、子どもたちは「水が姿を変えるのに、そこに働きかけるさまざま条件によって変わることがある」ことを経験として持ったものと考えられる。

注) 写真は校外や学校・教室内での学習活動ごとに添付してください（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

助成番号	助成事業名	園名
2024-7111-018	水が自然に与える働きを遊びを通して、身近な自然環境のすばらしさや働き、力を感じとる	学校法人立山学園みんなの森こども園

【流れるプールで遊ぼう】



学習活動名：「プールにちょうせん」（初めてのプール遊び）

日付：7月7日

見られた子どもの姿：3歳児

初めてのプール遊び。期待半分、不安半分。

「おうちのお風呂より大きいね。」

「つめたそう。」

「およげるかな」

不安そうにみているAちゃん。



学習活動名：「プールにちょうせん」（初めてのプール遊び）

日付：7月7日

見られた子どもの姿：3歳児

順番に入ります。3歳児にはステップが少し大きいので、上りにくい。滑らないよう、手すりをしっかり持って、一歩ずつしっかりと踏みしめ、上っています。

水が入るときも、ステップ幅が大きいので、

担当の先生は「しっかり持ってるからね」と子どもに話しかけ、安心してはいるように支援している。



学習活動名：「プールにちょうせん」（初めてのプール遊び）

日付：7月7日

見られた子どもの姿：3歳児

プールに入ることができました。初めてのプールなので、何をすればいいかわからず、先生の指示を静かに待っています。

「これからなにをするのかな」

「つめたいね」

「今日は暑いから、気持ちがいいね」

ちょっぴり不安で、みんな静かに待っています。



学習活動名：「プールにちょうせん」（初めてのプール遊び）

日付：7月7日

見られた子どもの姿：3歳児

皆で、プールの中を歩こうということで、みんな一緒に歩き始めた。「あるきにくいね」「つつるすべるよ」「うまくあるけん。」「足を高く上げればいいやん」「つかれた」などの声が聞こえた。3歳児は足の筋力がついておらず、体力や持久力が5歳児ほどにはないので、直ぐに疲れて、飽きてきた。



学習活動名：「プールにちょうせん」（初めてのプール遊び）

日付：7月8日

見られた子どもの姿：3歳児

気分を変えるため、プールの水に慣れるため、プールの中でお気に入りのおもちゃあそびをすることにした。

みんな気分良く、自分のお気に入りのおもちゃを取り出し、各自好きな遊び夢中になっていた。



学習活動名：流れるプールで遊ぼう

日付：7月8日

見られた子どもの姿：4歳児

4歳児では、プール遊びの経験があるので、厚いときに気持ちよく遊べる記憶がある。みんな、期待ワクワクで、うきうきした様子であった。1年たつと、体も大きくなり、筋力体力が付き、昨年の経験を生かして、ステップを軽やかに上り、慎重にプールに入っていた。



学習活動名：流れるプールで遊ぼう

日付：7月8日

見られた子どもの姿：4歳児

プールに入ってから、保育士からの指示がなくとも、体に水に慣らすために、自分の体に水をかけていた。

表情もにこやかで自信と余裕がみられる



学習活動名：

日付：8月5日

見られた子どもの姿：4歳児

体を伸ばし、足をつかずに手だけで移動する「ワニさん歩き」で、プール内をそれぞれが自由に移動していた。そこで、フープの輪くぐりをすることを提案した。

一列になり、皆で同じ方向から輪くぐりしないと、衝突するので、同じ向きで移動することを子どもたちから意見が出た。そこで、みんな揃って、一緒になってプールの中を移動していた。



学習活動名：流れるプールで遊ぼう「なりきりあそび」

日付：8月5日

見られた子どもの姿：4歳児

プール経験のある4歳児は水に顔をつけたり、もぐったりすることに挑戦することにした。

水族館で見た魚の輪くぐりショーから「魚になりきりごっこ」を始めた。一度潜り、水面のフープの輪から顔を出す遊びである。顔が濡れることを気にせずに潜り、息を止め続けて顔を出した時に息継ぎすることができるようになった。



学習活動名：流れるプールで遊ぼう

日付：8月6日

見られた子どもの姿：4歳児

ワニさん歩きもなれたもの。余裕をもって、お泳いでいる。他の子どもたちも、楽しそうに、している。



学習活動名：流れるプールで遊ぼう

日付：8月20日

見られた子どもの姿：4歳児

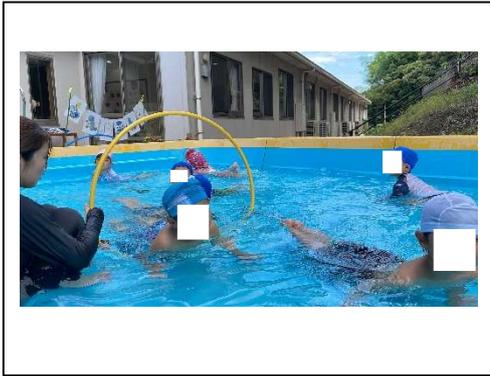
協力して一つのことを進めることができる4歳児は、プールのワニさん歩きで輪くぐりを楽しんでいた。

皆の泳ぎのスピードがそろい、水の流れる速さがはやくなってきた。

「あっつ。ながれが、はやいぞ」

「はやくおよげるよ」

など、水の流れの変化に気が付いてきた。



学習活動名：流れるプールで遊ぼう

日付：8月20日

見られた子どもの姿：4歳児

だんだんはよくなって、「ワニさん歩き」の手が、追いつかなくなってきたことに気づいた子どもは、手を底から離して、ケノビのように、水流に身を任せる子どもも出てきた。

水の流れに出会った時の対処法についての基本的な経験をし、パニックに陥らないための芽ができてきたと考える。



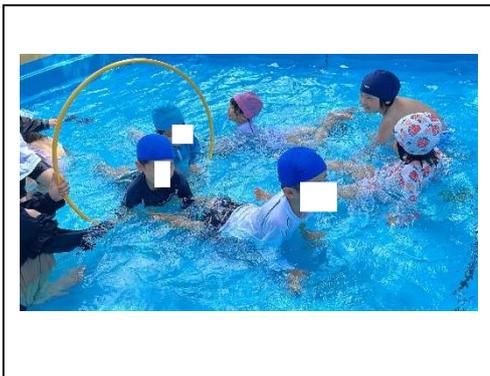
学習活動名：流れるプールで遊ぼう

日付：8月20日

見られた子どもの姿：3歳児

一方、夏の間プール遊びを通して水に慣れてきた3歳児は、水に浮かんで遊ぶことに面白さを覚えてきた。

また、力を合わせ、相手に合わせることもできるようになっている。



学習活動名：流れるプールで遊ぼう

日付：8月22日

見られた子どもの姿：3歳児

協力して、力を合わせながら、他の子どもの様子にも配慮した「ワニさん歩き」ができるようになってきた。しかし、まだ子供によっては、相手に合わせる事が難しいことも分かった。

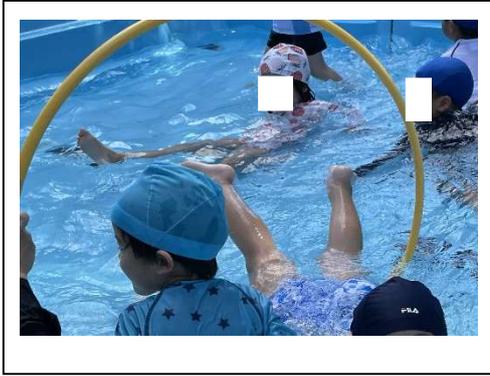


学習活動名：流れるプールで遊ぼう

日付：8月22日

見られた子どもの姿：3歳児

ぐるぐると回っているうちに、調子が出てきて、おもしろくなってきた。とともに、前の人との間隔もひろくなり、周りを見る余裕が出てきた。そうすると、調子があつてきて、プールを回る水に流れが出てきた。



学習活動名：流れるプールで遊ぼう

日付：8月22日

見られた子どもの姿：3歳児

だんだん流れが速くなってきて、おもしろくなって、さらに泳ぎをする子供が出てきた。

一方、その流れに追いつけずに、飽きてきた子（イチゴのキャップの女の子）は、泳ぐのをやめていた。ところが、自分の思いとは違い、勝手に流れていくことに気づき、これを楽しんでいた



学習活動名：流れるプールで遊ぼう

日付：8月22日

見られた子どもの姿：3歳児

これを見た、他の女の子は、この流れを楽しんでいた。

「おもしろいね」

「ふしぎだね」

「なんでだろう」

などと話していた。

水の中では、体重が軽くなること、水流にはモノを葉区部力があることなどに気づき始めていた。



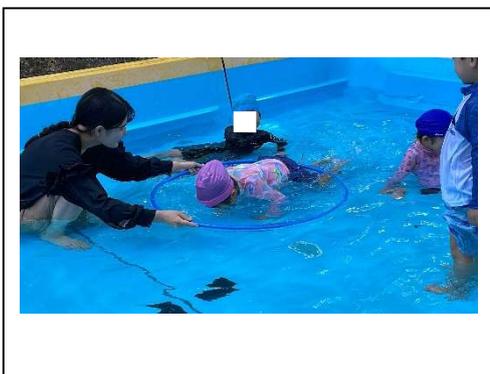
学習活動名：イルカになろう

日付：8月22日

見られた子どもの姿：3歳児

年上の子が行っていた、なりきりあそびを行うことにした。子どもの発達差があるので、無理強いをせず、やりたい子どもにチャレンジしてもらった。

「お魚の輪くぐり」では、これにチャレンジした子どもが水に潜り、見事に輪くぐりを行い、「できちゃった。」と、チャレンジして、できたことがとてもうれしそうであった。それをみんなが見て、祝福をしていた。



学習活動名：イルカになろう

日付：8月22日

見られた子どもの姿：3歳児

みていた女の子は

「やってみる」

とチャレンジをしている。それを横で、余裕をもって見ている先ほどの子どもの表情には、温かいまなざしを感じることができた。



学習活動名：イルカになろう

日付：8月22日

見られた子どもの姿：3歳児

皆で、フープにつかまり、水に体をゆだね、水の中を泳ぐことにした。

水に潜りながら泳ぐ子、潜らずに顔だけ水につける子、顔を水から出す子など、それぞれの子どもは自分のできること最大のことを行っていた。

水に入ることに不安を持っていた子供のすがたから、ずいぶん成長したと思った。



学習活動名：あたらしいあそびはっけん

日付：9月10日

見られた子どもの姿：3歳児

9月に入ってもまだ暑かったので、プール遊びを行った。

プールの底から足を離し、水にからだをあずけて泳ぐ姿勢を作れるようになっていた。



学習活動名：あたらしいあそびはっけん

日付：9月10日

見られた子どもの姿：3歳児

顔を水面から出して、泳ぎを楽しむ子

笑顔がみえ、余裕があり、ちょっぴり自信がついてきた模様であった。



学習活動名：あたらしいあそびはっけん

日付：9月10日

見られた子どもの姿：3歳児

2人そろって、完全に顔を水に浸けている子ども。

もう少しで、泳ぐことができそうです。



学習活動名：あたらしいあそびはっけん

日付：9月10日

見られた子どもの姿：3歳児

水上スキーさながらの姿勢で、引っ張ってもらっています。この子は、顔をつけて泳ぐ姿勢ができるので、テレビで見た水上スキーのようなことができないかなど、試して居ります。

「おもうように、すべれん」

とつぶやいていました。

テレビなどで得た情報をつかい、新しいことに挑戦する姿を垣間見えました。

注) 写真は校外や学校・教室での学習活動ごとに添付してください(枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7111-018	水が自然に与える働きを遊びを通して、身近な自然環境のすばらしさや働き、力を感じとる	学校法人立山学園みんなの森こども園
助成事業の主な実施箇所	<p>主な実施箇所 みんなの森こども園内（教室、ベランダ、プール、園庭及び森、玄関わき水槽）</p>	
	<p>※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。 （縮尺は1/50万～1/100万程度）</p> <p>河川の活動の対象である4・5歳児は、新型コロナウイルス感染症蔓延の最中に入園してきた。感染症対策の一環で、プール遊びは経験が少ない。水辺の経験の乏しい子を現実の河川に連れて行くのは危険と判断し、園内でのプール遊びをすることにより、水にふれあい体全体で水の感触を感じ水遊びを積み上げてゆくことにした。</p> <p>そのため、子どもたちにとっての河川教育の第一歩として、園内での水にかかわる体験を積んでいくこととし、活動場所を本園の教室、ベランダ、プール、および園内の森において実施した。</p> <p>【流れるプールで遊ぼう】 園舎東南のベランダに組み立てプールを設置。南側に森が迫り、風があまり通らなく、日当たりが良い。</p> <p>【氷で遊ぼう】 園舎玄関わきの水場横に設置している水槽付近 園内南にある丘北斜面（園舎に面している）の広場（下写真）</p>  <p>所在地：大分市大字丹川字長福寺 415 番地</p>	